ISSN 0917－4729

北方民族博物館だより

No.69

H1.139
レッドシーダー製帽子　北西海岸インディアン／ヌートカ
カナダ／ブリティッシュ・コロンビア州／クィーンコーブ
20世紀

幅26.0cm、高さ24.6cm

北西海岸インディアンの間では、シーダー（ヒノキの仲間）の樹皮やスプルース（トウヒ）の根等を材料にしたバスケット細工が発達している。例えば容器やマット、衣服、帽子などがつくられていた。

この帽子はレッドシーダーの樹皮が材料になっている。帽子に施されたシャチの文様は、持ち主が高い地位であることを示している。

1　表紙　レッドシーダー製帽子
2　講演会『沿海地方の森と動物たち』／写真展『こんにちはモンゴル』
3　講座『私が見たモンゴル』／『モンゴルの森林と遊牧民』
4　INFORMATION

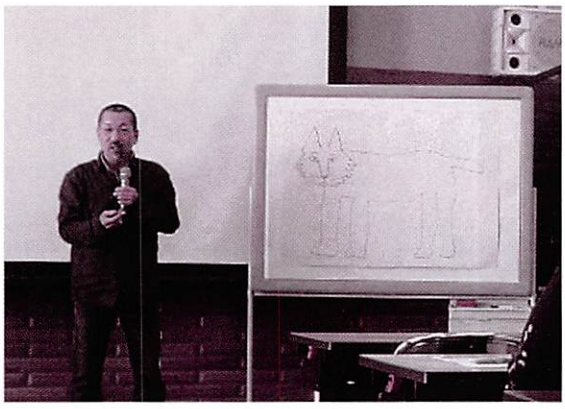
北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples

平成19年度講演会

『沿海地方の森と動物たち』

2008.2.16

講師　あべ弘士氏（絵本作家）



絵本作家・あべ弘士さんを講師に迎え、企画展「森の人ウデヘ―ウスリータイガに暮らす―」の関連事業として講演会を開催しました。あべさんは、動物園に飼育係として勤務された経験を活かし、特に動物を題材にした作品で知られています。本講演ではロシア・沿海地方の自然や動物について、動物の専門家、そして絵本作家の視点からお話しいただきました。

あべさんの作品にはさまざまな動物が登場しますが、特にアムールトラには愛着を抱いておられました。そして2004年、ついにその生息地、ロシア・沿海地方のビキン川流域を訪ねることができたのでした。

現地では、ほとんど人手が入っていない森や川の様子に原生の自然の姿を感じたとのことでした。ビキン川では実際に巨大なイトウを釣り上げ、その豊かさを実感されたそうです。また、先住民のウデヘの猟師から狩猟の経験談や昔話を聞くなどして、彼らの自然や動物に対する考え方を知ることができたそうです。

講演のなかでは絵をご披露いただいたほか、スライド上映やエッセイの朗読なども織り込んでいただきました。さまざまな媒体を駆使して沿海地方の自然や先住民文化についてお伝えいただき、参加者の皆様には企画展の背景をより深く知っていただくことができたと思います。

（学芸グループ　中田　篤）

写真展

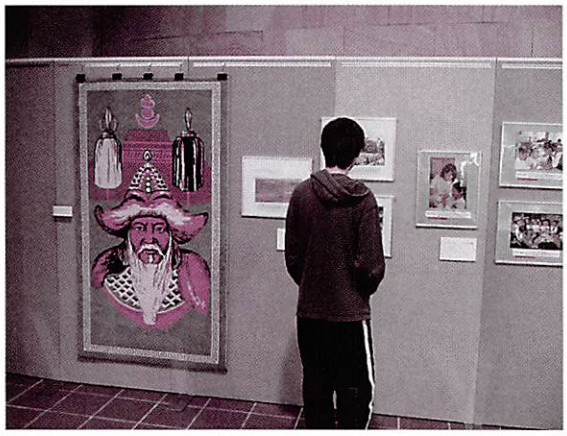
『こんにちはモンゴル～海外協力隊員が見たモンゴルの今』

2008.4.5-4.20

共催：JICA帯広（独立行政法人国際協力機構）

平成20年度最初の企画展として、モンゴルの写真展を開催しました。展示写真の多くは、髙橋久美子氏（現在、JICA国際協力推進員）が、2003～2005年にかけて青年海外協力隊員としてモンゴルで教員として活動していた際に撮影したものです。本写真展では、北部のスフバートルという町を中心に、季節ごとにさまざまな表情を見せるモンゴルの現在を紹介しました。

スフバートルの写真では、冬の市場の様子や電動式の井戸など、モンゴルの地方都市での日常風景が映し出されていました。また、革命記念日を祝うナーダムというお祭りや旧正月のお祝いの様子、そしてヒツジ肉の煮物や蒸し餃子といった料理など、モンゴルの伝統的な文化についても撮影されています。



ほかに移動式住居「ゲル」や家畜の乳しぼりなど、モンゴルのイメージにぴったりの写真や、砂漠や湖などあまり知られていないモンゴルの風景、そして髙橋氏が現地で授業をしている様子を記録した写真もありました。

展示では、実物資料もいくつかご覧いただきました。モンゴルの伝統的な衣類、じゅうたん、小学校の教科書など、ほとんどが髙橋氏がモンゴル滞在中に入手した品々です。また、民族衣装体験コーナーは、特に女性に好評でした。

（学芸グループ　中田　篤）

講座

『私が見たモンゴル
ー街・草原・子どもたちー』

2008.4.12

講師　髙橋久美子氏（JICA国際協力推進員）

写真展の関連事業として、撮影者であり、青年海外協力隊員としてモンゴルでの活動経験を持つ髙橋氏を講師に迎え、講座を開催しました。２年間に及ぶ現地での体験から、モンゴルの地方都市での生活や学校教育について、スライドなどを交えてわかりやすく紹介していただきました。

まず、青年海外協力隊やJICA（独立行政法人国際協力機構）の目的、業務について説明いただき、次に、モンゴルでの体験をお話しいただきました。

赴任地のスフバートルは冬には最低気温が－46℃にもなる所で、凍った牛乳が塊で売られていたこと、パンも食べるが、主食は羊や牛の肉だったことなど、自然や文化の違いについて紹介していただきました。

また、教員としての体験では、小学校の図画ではお手本と同じものが良いとされ、子どもたちは先生と同じ構図、色の絵を描いていたのだそうです。こうした学校で、個性を伸ばすような授業を実践するためには、現地の職員との間にさまざまな軋轢（あつれき）があったそうです。しかし、現地の方々と触れ合いながらモンゴルに適した方法を創りあげていく過程に、大きなやりがいを感じられたということでした。

（学芸グループ　中田　篤）

学芸員講座①

『モンゴルの森林と遊牧民
トナカイ遊牧民ツァータンの夏』

2008.4.13

講師　中田　篤（当館学芸員）

写真展の関連講座、また今年度第一回目の学芸員講座として、モンゴルのトナカイ遊牧民ツァータンの放牧活動について、2007年夏の現地調査の結果を中心に報告しました。

まず最初に、ユーラシア大陸北部の広い範囲でおこなわれてきたトナカイ遊牧全般について概観し、トナカイ遊牧がおこなわれている地域としてはモンゴルが南端になることなどを説明しました。

次に、モンゴル国全体の地形や気候、植生などを紹介しました。草原の国として知られているモンゴルですが、南部には砂漠、北部には針葉樹林帯（タイガ）が広がっており、トナカイ遊牧民はその針葉樹林地帯でおこなわれていることをお話ししました。

そして最後に、2007年夏の現地調査結果について報告しました。ツァータンの夏営地は涼しくて見通しが利く広大な谷間に設置されていること、トナカイの搾乳（さくにゅう）が盛んにおこなわれ、乳はチーズなどに加工されていること、トナカイは２頭１組で放牧されており、ある程度餌を食べると自発的に宿営地に戻ってくることなどについて、スライドを映写しながら説明しました。

（学芸グループ　中田　篤）

トナカイを二頭一組で放牧する様子
（2007年7月モンゴルにて撮影）

第23回特別展　環北太平洋の文化Ⅲ

トーテムの物語
～北西海岸インディアンのくらしと美～

平成20年7月19日［土］～10月19日［日］
会　場　当館特別展示室
観覧料　中学生以下無料、一般 450(360)円　高・大生 150(120)円

※（　）内は10名以上の団体料金。
常設展及び網走市立美術館の共催展示「～版の世界～所蔵作品と北西海岸インディアンの版画展」（8月2日［土］～31日［日］）との共催割引もあります。

海と川で魚を捕り、森林に獲物を追い、野草や木の実を摘む。
大木でトーテムポールを造り、ロングハウスに住まい、儀礼を重んじる。
かつて、そうくらしてきた人びとは今———
アメリカ、そしてカナダに生きる北西海岸先住民の文化をたずねる。

INFORMATION

職業体験

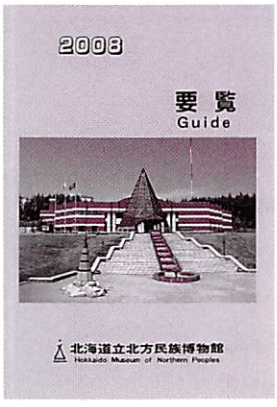
◆5月15日、16日の二日間、北海道清里高等学校の２年生が職場体験を行いました。

行事報告

◆5月17日［土］に、「国際博物館の日なるほど！北方民族博物館ツアー」を開催しました。

要覧

要覧2008年度版を発行しました。



花

◆6月6日［金］に、ボランティアのみなさんと職員でインターファーム（株）様から寄贈いただいたマリーゴールドやペチュニアの苗を植えました。

職員の異動

◆採用

副館長	北出　一明
博物館課長	髙橋　利雄
主事	日比野美保

◆退職

副館長	椎名　惟義
博物館課長	冨塚　和美
主任主事	安藤　芳恵

北方民族博物館だより
No. 69

平成20(2008)年6月27日発行
編集・発行　北海道立北方民族博物館
〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1
電話 0152-45-3888　fax 0152-45-3889
e-mail：tonakai@hoppohm.org
http：//hoppohm.org
指定管理者
財団法人北方文化振興協会